

第八十一回經濟研究会報告

三月十二日(火)於 經濟学部研究室

發表者 西川 宏專任講師

座 長 中西仁三教授

テーマ「租税面よりのニュー・ディール期の検討」

- 一、古米淑郎助教授は、本年四月より教授に任命されました。
- 一、入江節次郎助教授は、本年四月より教授に任命されました。
- 一、笹田友三郎助教授は、本年四月より教授に任命されました。
- 一、西川宏專任講師は、本年四月より助教授に任命されました。
- 一、柏博助手は、本年四月より專任講師に任命されました。
- 一、本年四月より新たに藤村幸雄氏が、專任講師に任命されました。
- 一、西川良一教授は、フランス留学のため三月羽田を出發されました。

一、榎原胖夫助教授は、アメリカ留学のため三月羽田を出發されました。

第八十回經濟研究会報告

二月七日(木)於 經濟学部研究室

發表者 岡谷元治教授

座 長 中西仁三教授

テーマ「人民公社の所有制」(スライド併用)

- (出席者) 宗藤、松井、今西、黒松、中島、相見、岩根、小野、西川(良)、伊藤、入江、笹田、古米、辻、西川(宏)、村田、小林、柏、島、小森

ニューディール期の財政政策が革新的であつたかどうかを判断

する基準として、伝統的財政政策の公準であつた支出削減、均衡予算および公債償却といった諸特徴がこの時期に破棄せられたかどうかをたずねてみる方法が考えられる。本誌第十二巻第三・四号の拙稿において、主としてキヌメルを中心に、ニューディール期の予算、支出政策が考察されたが、そこでは次のことが明らかにされた。つまり一九三七年までの財政政策はとにかくいきあたりばったりで、まにあわせのりで、その無計画性は理論的にかろうじて誘い水理論によつて処理されたわけだ、ようやく一九三八年になつて経済理論的に裏づけをもつ補整的財政政策が計画的にリーズヴェルトによつておこなわれるようになった。しかしその補整的財政政策もつまるところは支出削減、均衡予算、公債償却といった伝統的な予算政策目標をもつ樂觀的補整的財政政策であつた

のである。しかしこの予算目標は一応別として財政支出面だけに
かぎってみれば、とにかく一九三八年以後は事実において政府は
計画的な、拡張的な赤字支出政策を実施したという点においては
ニューディールは新しい経済学からおしえをうけたように思え
る。この点が真実であるかどうかをみきわめるために今回の報告
はとくに租税面の分析に重点をおいたのである。つまりケインズ
の一般理論があらわれる以前の消極的収入獲得政策や改良的租税
政策の時期は説明するまでもなく、支出の面において一見革新的
に思えた一九三八年以降においても、それとつじつまのあった減
税政策が計画的におこなわれたことはなかった、ということは今
回の報告は強調している。われわれはこのことよりニューデー
ル期には新しい経済学のおしえはまだアメリカに浸透しきってい
なかつた、ということを理解するのである。

発表者 伊藤史朗教授

座 長 中島哲人教授

テーマ「連立方程式モデルにおける最小自乗推定の偏りについ
て」

なお、伊藤教授の報告の詳細は近く本誌に掲載される予定で
ある。